

しんぱん
しどうようもんしゅう
新版 指導要文集

だいにしょう
じっせん
第二章 実践

さんるい
ごうてき
三類の強敵

かんじほん い

ねが

うらおも

勸持品に云わく「ただ願わくは慮いをなしたまわされ。

ほとけめつど

のち

くふあくせ

なか

われ

まさ

ひろ

仏滅度して後、恐怖悪世の中において、我らは当に広く

と

もろもろ

むち

ひと

あつく

めりとう

説くべし。諸の無智の人の、悪口・罵詈等し、および

とうじよう

くわ

ものあ

われ

みなまさ

しの

あくせ

刀杖を加うる者有らん。我らは皆当に忍ぶべし。悪世の

なか

びく

じゃち

こころてんごく

え

おも

中の比丘は、邪智にして心諂曲に、いまだ得ざるを謂つ

え

がまん

こころ

じゅうまん

あれんにや

て得たりとなし、我慢の心は充滿せん。あるいは阿練若

のうえ

くうげん

あ

みずか

しん

どう

ぎよう

おも

に納衣にして空閑に在って、自ら真の道を行ずと謂つ

にんげん

きようせん

ものあ

りよう

とんじやく

ゆえ

て、人間を輕賤する者有らん。利養に貪著するが故に、

びやくえ

ほう

と

よ

くぎよう

白衣のために法を説いて、世の恭敬するところとなるこ

ろくつう らかん

ひと あくしん いだ つね

と、六通の羅漢のごとくならん。この人は悪心を懷き、常

せぞく じ おも な あれんにや か この われ とが

に世俗の事を念い、名を阿練若に仮りて、好んで我らが過

い つね だいしゅ なか あ われ そし ほつ

を出ださん○常に大衆の中に在って我らを毀らんと欲する

ゆえ こくおう だいじん ばらもん こじ よ びくしゅ む

が故に、国王・大臣・婆羅門・居士および余の比丘衆に向

ひぼう わ あく と じゃけん ひと げどう

かつて、誹謗して我が悪を説いて『これ邪見の人、外道の

ろんぎ と い じゃつこうあくせ なか おお もろもろ

論議を説く』と謂わん○濁劫悪世の中には、多く諸の

くふ あ あつき み い われ めり きにく

恐怖有らん。悪鬼はその身に入つて、我を罵詈・毀辱せん

じよくせ あくびく ほとけ ほうべん よろ したが と

○濁世の悪比丘は、仏の方便、宜しきに随つて説きたも

ほう し あつく ひんしゆく ひんずい

うところの法を知らず、悪口して顰蹙し、しばしば擯出

とううんぬん

せられん」等云々。

き はち い もん みつ

記の八に云わく「文に三つあり。初めに一行は通じて

じゃにん あ すなわ ぞくしゆ つぎ いちぎよう どうもんぞうじようまん

邪人を明かす。即ち俗衆なり。次に一行は道門増上慢

もの あ さん しちぎよう せんしろうぞうじようまん もの あ

の者を明かす。三に七行は僭聖増上慢の者を明かす。

みつ なか はじ しの つぎ さき す だいさん もと

この三つの中、初めは忍ぶべし。次は前に過ぐ。第三は最

はなは のちのち もの うた し がた ゆえ とう

も甚だし。後々の者は転た識り難きをもつての故に」等

うんぬん

云々。

(005 開目抄

かいもくしやう

さんるい べこうてき

三類の強敵 102 ページ 12 行)

だい ち さ

外

大地は指さばはずるとも、

はる はな

咲

春は花はさかずとも、

さんるい

三類の

てきじんかなら にほんこく

敵人必ず日本国にあるべし。

かいもくしやう

(005 開目抄

さんるい べこうてき

三類の強敵 105 ページ 7 行)

これらの本文を見れば、三類の敵人を顕さずんば、
法華經の行者にあらず。これを顕すは、法華經の行者
なり。

（028 教機時国抄

三類の強敵
482ページー14行）

されば、この経きようを聴聞ちようもんし始めはじん日ひより思おもい定さだむべし。
きようめつどご
「況滅度後めつど（いわんや滅度して後のちをや）」の大難だいなんの三類さんるいはなは甚
だしかるべしと。

036 如説修行抄によせつしゆぎようしよう

三類さんるいの強敵ごうてき
599 ページ 13 行

たれひと

おわ

しよきよう

むとくどう

だじごく

こんげん

ほけきよう

誰人にてても坐せ、「諸経は無得道、墮地獄の根源、法華経

ひと じようぶつ

ほう

こえ

お

呼

たま

独り成仏の法なり」と、音も惜しまずよばわり給いて、

しよしゆう

にんぽうとも

しゃくぶく

ごらん

さんるい

ごうてききた

諸宗の人法共に折伏して御覧ぜよ。三類の強敵来らんこ

うたが

と疑いなし。

によせつしゆぎようしよう

(036 如説修行抄

さんるい

ごうてき

三類の強敵 603 ページ 12 行)

によせつしゆぎよう

ほけきよう

ぎようじや

さんるい

ごうてきう

されば、如説修行の法華經の行者には、三類の強敵打ち

さだ

あ

し

たま

定んで有るべしと知り給え。

しやくそんごにゆうめつ

のちにせんよねん

あいだ

によせつしゆぎよう

されば、釈尊御入滅の後二千余年が間に、如説修行

ぎようじや

しやくそん

てんだい

でんぎよう

さんにん

そうら

の行者は、釈尊・天台・伝教の三人はさておき候い

まつぼう

い

にちれん

でしだんなとう

ぬ、末法に入つては、日蓮ならびに弟子檀那等これなり。

によせつしゆぎようしよう

036 如説修行抄

さんるい

ごうてき

三類の強敵 604 ページ 3 行

によせつしゆぎよう

ほけきよう

ぎようじや

さんるい

ごうてき

したがって如説修行の法華經の行者には、三類の強敵がかな

きそ お

し

しやくそん

めつご

らず競い起こってくるのだと知りなさい。だから釈尊の滅後から

にせんねん

あいだ

によせつしゆぎよう

ぎようじや

しやくそん

てんだい

二千年あまりの間に如説修行の行者といえ、釈尊・天台

だいし でんぎようだいし さんにん

まつぽう はい

にちれん

大師・伝教大師の三人はさておいて、末法に入ってから日蓮と

もんか でし しんじや

その門下の弟子・信者がこれにあたります。